



女性のまなざしでしなやかな社会を

WE

特定非営利活動法人
ウィメンズアイ

2022年度活動報告書・決算報告書
2022年6月～2023年5月

2022.6-2023.5

気仙沼ひとり親調査プロジェクト

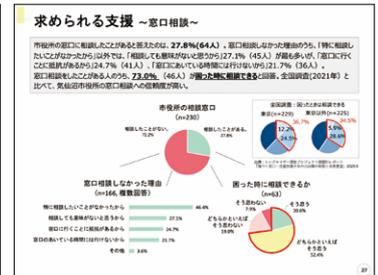
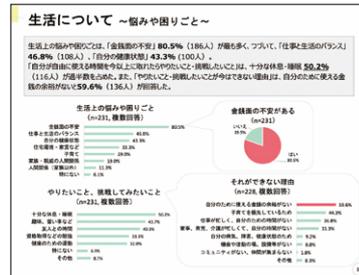
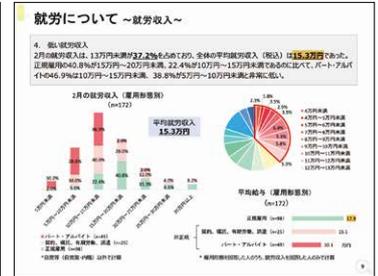
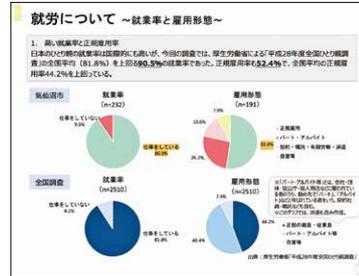
宮城県気仙沼市の全面的協力を得て前年度の2022年3～4月にかけて気仙沼市で初めてとなる「ひとり親調査」を行いました（有効回答232件）。今年度7～8月にはさらに課題の根本原因や背景をより詳しく探るために10名のインタビューを実施。調査結果の分析では、就業率や正社員率は全国平均より高いが就労収入が低く、金銭面の不安を抱えている世帯が8割にのぼることや、市役所の「相談窓口」に相談したことがある」と答えたのは、3割に満たない一方で、「困った時に相談できる」と7割以上が回答するなど、気仙沼の特徴的な結果も見られました。気仙沼市のひとり親の実態がデータとして可視化されたこと、政策への提言書を同年9月に気仙沼市長と担当部署の部課長向けに共有できたことは本調査の大きな成果となりました。報告書は行政の勉強会などでも活用されており、政策提言を受けて、女性向けの就労相談がこれまでとは違い就業時間外に設定されるなど、少しずつ変化がはじまっています。

また、このひとり親調査の結果は、気仙沼での「地域女性のICT研修プロジェクト」に結実しています。

* 当調査活動はNPO法人「人間の安全保障フォーラム」の【誰一人取り残されない気仙沼】との協働で実施しました。
* この活動にはチャネル財団の助成を活用しました。



調査結果について地元の方向けに開催した報告会の様子



「気仙沼ひとり親の生活調査」報告書から一部抜粋。報告書には、就労や生活のほか、家計や住居、子育てについて集計・分析した結果がまとめられています。

DATA

11月「気仙沼ひとり親の生活調査」報告書～誰も取り残されない気仙沼の実現に向けて～をウィメンズアイのHPに公開
2月 市民向け説明会「気仙沼ひとり親の生活調査報告会——女性の就労・子育て・人口減少——」を開催。商工会、福祉関係、自治体、メディアなど計24名が参加

「地域女性のICT研修プロジェクト」事前ヒアリング

2023年4月より3年間実施予定の上記の新プロジェクトを企画し、準備作業を行いました。気仙沼の女性が置かれている就労環境や暮らしの状況、そして求められる就労支援プログラムのニーズを調査によって明らかにし、就労プログラムを提供、就職という出口の創出を目標としています。2023年8月に行う気仙沼市18～49歳の全女性（約7800人）対象の調査準備のため、4～5月に気仙沼市、地元のICT支援をしている企業や、すでに就労支援をしている地元の団体、ICTのOJTをしている団体、MOSを受講した経験のあるシングルマザーなど合計10名の事前ヒアリングを実施しました。



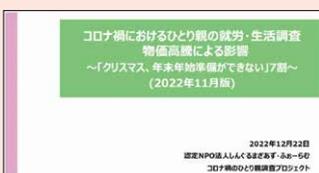
12月に気仙沼市の関係各課、アドバイザー、ウィメンズアイでプロジェクトの事前打ち合わせを実施

5月に、プロジェクトの3年間の計画と評価方法についてアドバイザーと打ち合わせを実施

DATA

2/2 シャネル財団来日、プロジェクトのキックオフミーティング
3～5月：事前ヒアリングを実施。気仙沼市、地元のICT支援をしている団体、就労支援団体、ICTのOJT実施団体、MOSを受講した経験のあるシングルマザーなど、合計10名
* この活動にはチャネル財団の助成を活用しました。

コロナ禍のひとり親調査プロジェクト



コロナ禍による影響に加え、物価高騰がひとり親世帯に大きな影響を与えていることが調査から明らかに

新型コロナウイルスが蔓延し始めた2020年6月より、認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーむをはじめ、ジェンダーや子どもの貧困を専門とする研究者などと共同で行ってきた全国でのシングルマザー調査。今年度は名称を「コロナ禍のひとり親調査プロジェクト」と改め、17回目となる「コロナ禍におけるひとり親の就労・生活調査 物価高騰による影響」（有効回答数1255人）調査を2022年11月に実施。およそ2年半にわたる継続的な調査と分析により、コロナ禍におけるひとり親世帯への影響を可視化することができたことは大きな成果だと言えるでしょう。

DATA

レポート「コロナ禍におけるひとり親の就労・生活調査 物価高騰による影響～「クリスマス、年末年始準備ができない」7割～（2022年11月版）」
https://note.com/single_parent_pj/n/n9b052898f05f
12月22日 オンライン記者発表会
登壇者：赤石千衣子（しんぐるまざあず・ふぉーむ理事長）、湯澤直美（立教大学コミュニティ福祉学部教授）、米良有加（JPモルガン証券株式会社/エコノミスト）

* この活動にははいじょうぶだよ！基金、チャネル財団の助成を活用しました。

気仙沼市アクティブ・ウーマンズ・カレッジ第6期

前年度につづき、気仙沼市の女性人材育成事業「気仙沼市アクティブ・ウーマンズ・カレッジ」第6期の企画・運営を受託しました。18～40歳代の14名の女性たちが6回の連続講座を通じて参加者同士、また、地域の先輩から学びなが



市内で活躍している女性2人を講師に迎えた第二回講座。起業までの思いや家庭と仕事の悩みなどをお聞きました



毎回、安心して参加できるように、受講生とこの講座のルールを確認しています



出来上がった名刺で、ひとりひとり市長と名刺交換を行いました



少人数グループの対話を重ね、お互いの気持ちを知り合い、つながりを深めました

ら、自分の思いを伝える言葉を磨き、アクションプランづくりを行いました。受講生たちは、自分を認めてくれる、やりたいことを応援してくれる仲間を見つけることで、一步踏み出す勇気を得ました。受講生の提案で、受講生だけのSNSグループができ、講座後もお互いの近況を報告しあうなど、活発な交流が続いています。気仙沼地域で主体的に動く女性たちのネットワークが広がっています。

DATA

実施期間：2022年7月～2022年12月

全6回連続講座 各回150分（10:00-12:30）

対象者：18歳～40代の女性で市内在住の方または市内に通勤・通学をしている方

受講者数：14名

受講料：無料

託児：無料、事前申し込み制

託児実施団体：一般社団法人おりがみ（気仙沼）

第1回 7/24（日）「女性の一步を応援する連続講座」〔開講式、オリエンテーション、チームビルディング〕

*参加者8人、託児3人

第2回 8/28（日）「先輩から学ぶ、はじめの一步の踏み出し方～好き・得意を地域で活かす～」講師：鈴木あい子（フィットネスサロンSeleno）、水野いずみ（いずみばん）〔セミナー、ワークショップ〕

*参加者12人、託児9人

第3回 9/25（日）「自分らしさ発見+自分の軸を探求」講師：栗林美知子（NPO法人ウィメンズアイ南三陸所長、ワークショップデザイナー）〔ワークショップ〕

*参加者9人、託児6人（後日、3回の補講を実施し、受講生14名全員が受講）

第4回 10/23（日）「自分を伝える名刺づくり～私のこれからのアクション～」講師：鈴木歩（デザイナー、ペンシー代表）加藤尚（デザイナー、ペンシー）〔ワークショップ〕

*参加者12人、託児8人（後日、1回の補講を実施し、受講生14名全員が受講）

第5回 11/13（日）「地域の課題に目を向ける～自分ごと化からはじまる活動～」講師：小野寺愛（スローフード三浦半島代表／一般社団法人そっか共同代表）〔セミナー（オンライン登壇）、グループワーク〕

*参加者7人、託児8人

第6回 12/11（日）「小さな一步～わたしのアイデアが地域をちょっとり素敵にする～」〔グループワーク、名刺交換会、修了式〕

*参加者10人、託児7人

気仙沼、子どもの居場所「みらいと」

気仙沼ひとり親世帯の調査から、気仙沼市には子どもたちが安心して遊べる場所や放課後の居場所が限られていること、その状況は、保護者の生活や仕事、子どもたちの学習に大きな影響を与えることが明らかになりました。これを受けて、NPO法人「人間の安全保障」フォーラムは気仙沼市神山に子どもの居場所「みらいと」を開設。WEもこの居場所づくりに参画しました。

みらいとでは、多様な人やものとの出会いから、子どもたち自身がやりたいことを考え選択し実行する、子どもたちの場所であるということを大切に、子どもたちと一緒にイベントを考えたり、遊んだり、勉強したり、場所づくりを行っています。

開所日には、研修を受けたスタッフが2名以上常駐し、子どもを見守りを行なっています。

*この事業にはロクシタンジャポンのご寄付をいただいています



2022年11月みらいとオープニングイベント



大きなテーブルを囲ってものづくりをしています



みらいと立て看板制作の様子

DATA

・開所時間 毎週月、水 15:00～19:00

・11/3 みらいと オープニングイベント
参加者約30名

・11/20 みらいと冬物市

・4/5 イースターイベント

・5/8、5/10 ファミリーデー

女性と女の子の相談窓口～みやぎの女性つながりサポート型支援事業

WEは「女性と女の子の相談窓口」を通年開設し、女性相談員3名が南三陸町および気仙沼市、登米市、さらに近隣自治体の女性たちの相談に対応しています（7～2月は宮城県からの受託で「みやぎの女性つながりサポート型支援事業」の一環*）。長引くコロナ禍の影響を受け、相談件数は前年の2倍以上になっています（2021年度60件、2022年度130件）。寄せられた相談は、家族の悩みが最多であり、次いで仕事や生活の悩み。うち、再相談が7割を占めています。悩みの背景には、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見、固定観念などが見られます。相談窓口が知られるようになり、何かあっても相談できる場があるという意識が地域女性に広まりつつあります。

「モヤモヤして、一人ではどうにもならないので久しぶりに電話してみました」（Kさん）

窓口以外の出張相談会や、託児付きイベント、アウトリーチ型支援として地元高校への定期訪問も行いました。



個別相談のほかに、テーブルを囲んでゆっくり会話できるスペースを用意しています



昨年から電話相談は1.8倍に、20・30代の相談も3倍に増加しています

パン・菓子工房シェアOui(ウイ)

シェア工房利用登録5名（2023年4月更新時）。オリジナルパンの製造販売は、週3日水、金、土で営業しています。また、昨年に続き志津川高校商学部の皆さんが年末のおすばで祭りで、ouiのバゲット付きの手作りタコシチューを販売。すぐに完売し、大好評をいただきました。

DATA

- 7/30 こ・あきない市出店
 @利府町tsumiki
 9/18 南三陸マルシェ出店
 9/23 森のてごと市出店（気仙沼）
 10/23 南三陸マルシェ出店
 2/3 地場産品直売会出店（気仙沼合同庁舎）
 2/4 のぞみOPEN FACTORY 出店（のぞみ福祉作業所）
 3/26 こ・あきない市2023春の陣出店@利府町tsumiki
 4/29 結の里5+7周年記念イベント
 掲載



さんさん商店街の向かいで開催された南三陸マルシェ

『家の光』2023年3月号東日本版連載「きらりハーモニー」

DATA

女性と女の子の相談窓口 年度総相談件数計130件

・相談窓口「女性と女の子のための相談窓口」
 電話相談（平日・土曜10:00-18:00）、メール相談（随時）、対面相談（予約制）

・出張相談

（気仙沼ハローワーク内 月1回・第3木曜日（6月～2月）、登米保健所内 月1回・第2火曜日（6月～2月）、南三陸町役場内 11/11、気仙沼合同企業説明会）

・アウトリーチ型支援

・志翔学舎：8月より月2回訪問

・助産師による相談会

対面相談1件、電話相談2件、相談に対する助言3件

・かわら版『yukimichiだより』の発行

専門相談員が心と体のケアについて伝えるB5両面の情報発信チラシ。7月～2月 計4回×200部発行 子育て支援センター、学童施設、スーパー、カフェなど21か所に設置

・イベント開催

気軽に話せる「女性のためのほっとスペース」

1/23 南三陸：ハンドマッサージ 参加者7名 助産師による出張相談コーナー、相談員3名参加

・生活困窮者支援

・生理用品配布 のべ44名

・食糧支援 延べ123名（協力：セカンドハーベスト・ジャパン「アダプトファミリープログラム」）

実施体制：統括・国家資格キャリアコンサルタント1名、産業カウンセラー2名（3名ともにウィメンズアスタフ）

協力団体：にじの助産院

連携団体：気仙沼市社会福祉協議会、ひありんく気仙沼、登米市社会福祉協議会、そえーる登米、南三陸町社会福祉協議会、パーソナルサポートセンター

*この事業にはネット寄付サイトGive One、隈研吾事務所刺し子ジャケットチャリティプロジェクトの寄付を活用しています。

*事業の一部は「みやぎの女性つながりサポート型支援事業」の一環として、宮城県の補助金を用いて行いました。



男女共同参画セミナー ～みやぎ女性活躍ネットワーク事業

宮城県との連携・協働により、気仙沼・登米地域において女性が活躍しやすい環境の整備や男女共同参画の理解と理念の浸透を図っています。今年度は気仙沼市との共催で、マイクロアグレッション*（図版キャプション参照）について学ぶセミナーを開催しました。参加者のほとんどが初めて聞く言葉でしたが、それぞれが差別について自分事として考えるきっかけをつくることができました。参加者からは「モヤッとをそういうもの、しょうがないと思っている自分がいて、そこにストレスを感じていたが、モヤッとをモヤットとしていいんだと心が軽くなった。」「日々感じるモヤモヤを私だけじゃないと。

声に出して言うことが必要だし、もっと気楽に話せるような世の中になると良いな～と思いました！」などの感想がありました。

DATA

6/2 女性活躍ネットワーク会議出席（栗林）

1/15 セミナー「わたしたちの生きやすさのヒント～マイクロアグレッションについてまなぼう～」を気仙沼市ワテン庁舎で実施。講師：水木理恵氏（福島県立医科大学、臨床心理士）参加者15名、託児3名

*この事業は宮城県の「みやぎ女性活躍ネットワーク事業（気仙沼・登米地域）」の一環として行いました。



マイクロアグレッションは、社会システムの最小単位、個人、直接的な対人関係でおこる攻撃的なこと

南三陸子そだてハッピープロジェクト

東日本大震災は、町の子育て環境を悪化させました。2021年春、南三陸町で子育て中の女性たち自身が子育てに関する300を超える意見をとりまとめた要望書を町に提出しました。ウィはこれらの背景から、2022年6月から復興庁の地域づくりハンズオン事業*を活用して「南三陸子そだてハッピープロジェクト」を開始しました。

まずは、子育て中の当事者、南三陸町保健福祉課の聞き取りを開始。その上で、就学前児童と小学生の保護者を対象に南三陸町と共催で子育て世代のニーズを確認する調査を実施しました。調査結果からわかったことは、3世代同居が一般的で必要ないと考えられてきた預かりサービスのニーズです。子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）が、もしも導入された場合、就学前児童を持つ家庭の57%、全体としても50%以上が「利用したい」と回答しました。5月には広く調査結果を共有する報告会を町内で開催。また、子育て中の

女性たちのエンパワーメントを目的に、子育て中の当事者が集まれる場づくり、他地域の子育ての取り組みの視察訪問や座談会も開始し、新しいつながりを生み出し始めています。

DATA

11/22 ～教えて！となりの子育ての取り組み～気仙沼への日帰りバスツアー（家カフェ「HATA」、子育てシェアスペースOmusubiを見学） 南三陸の女性と子ども 計7名参加
 2/24 徳島県徳島市「NPO法人子育て支援ネットワークとくしま」 オンライン聞き取り
 2/28 兵庫県西宮市の家事・育児サポート団体NPO法人a littleとのオンライン座談会 南三陸町からの参加者3名
調査活動
 南三陸町における子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの動きにあわせて、南三陸町との共催で実施
 調査名：「南三陸町の子育て環境に関わるニーズ調査」
 期間：2023年2月20日～3月6日
 対象者：就学前児童の保護者、小学生の保護者
 調査方法：WEBアンケート方式
 回収数：138名 有効回答数：126名
 調査主体：特定非営利活動法人ウィメンズアイ
 共催：南三陸町（保健福祉課）
 調査結果 <https://womens-eye.net/report/6022>
 5/11 「南三陸町の子育て環境に関わるニーズ調査結果共有会」@南三陸町生涯学習センター 参加13名



子育てシェアスペースOmusubiの村上さんからお話を伺いました



Omusubiさんの託児室を視察しました



調査結果共有会では、当事者から子育てに求める声を直接届けてもらいました

*調査活動・分析・報告書作成には、2022年6月～2023年3月、復興庁令和4年度地域づくりハンズオン支援事業で伴走支援いただきました。
 *本プロジェクトは、Yahoo!基金2022年度被災地復興調査助成のご支援をいただいています。2022年10月～2023年9月

出張マルシェ「小さなたがい市」

女性たちによる出張マルシェを、ウィメンズアイ、社協、地元出店者たちによる実行委員会形式で実施。高齢者を中心に地域に暮らす人々の楽しみな外出と交流の機会となっています。

DATA

6/16 戸倉・沖田集会所 出店者8組、来場者数157名
 7/21 歌津・伊里前復興住宅集会所 出店者8組、来場者数64名
 9/15 歌津・名足集会所前 出店者7組、来場者数53名
 10/20 歌津・港親義会館 出店者7組、来場者数74名
 11/2 志津川西復興住宅第一集会所 出店者8組、来場者数120名
 4/12 志津川中央行政区集会所前 出店者9組、来場者数75名
 5/10 入谷 四季の里 出店者8組、来場者数65名



地域のボランティアさんも加わって、たがい市でつながるコミュニティが広がっています

ひころマルシェ事務局 ～うみさと暮らしのラボ

コロナ禍を経て、感染対策を行いつながる中規模のマルシェを開催しました。WEは事務局として実行委員会メンバーと大学生ボランティアとともに運営を担いました。



オープンと同時に沢山のお客様ににぎわいました

DATA

10/30（日）ひころマルシェ2022秋
 主催 ひころマルシェ実行委員会
 共催 ひころの里
 後援 南三陸町、（一社）南三陸町観光協会
 ボランティア 前日22名、当日34名
 来場者数 652名、出店者数 70名、出展数 33ブース（うち3件当日キャンセル）

*この活動には南三陸町おらほのまちづくり補助金を活用しています。

コミュニティ活動～集いの場づくり

南三陸町入谷事務所スペース（モリドマ）などで、以下の活動を行いました。

DATA

ヨガ教室 17回開催、延べ参加者57名@モリドマ
 りあんの会（刺し子サークル） 21回開催のべ111名参加@カフェ・ド・リアン
 2/11 石巻劇場芸術協会主催 映画「杜人」上映会 22名参加@モリドマ



映画を鑑賞した後は、ゲストを交えて意見交換しました

グラスルーツ・アカデミー東北 inバークレー

2015年の第3回国連防災世界会議のプレイベント「国際地域女性アカデミー in Tohoku」を皮切りに、岩手、宮城、福島の若手女性のエンパワーメントを目的として開催してきたグラスルーツ・アカデミー東北。今年度は通算3度目の海外研修をバークレーを拠点にアメリカ西海岸で開催しました。猛威を振るうCOVID-19により度々の延期を強いられてきましたが、過去の国内アカデミー参加者および過去参加者推薦により募集し、今回の研修テーマを「学びたい」という純粋な意図で参加を決めた11名と共に実施。2019年度福島での第10回研修でプログラム設計とファシリテーションを行なった齊藤由香さんの活動地で、教育、食、環境、共生、差別、起業などの分野での市民による自発的活動の現場を訪ね、アクティビストたちと直接対話を行いました。地域活動と市民の参加意識が政策を動かし、システムを変えてきた成功体験を見聞きする一方、新たに生まれ続ける問題に対し自分の地域でどうしていきたいのかワークを通して深く語り合い、仲間を見つけ、歩み続ける力を得た1週間となりました。参加者による力のこもったレポートはホームページに公開しています。



学校菜園に最初に取り組んだ中学校



共生がテーマのカンティクルファーム



LGBTの社会運動の歴史を伺う



自然の治癒力を感じた、ナチュラ

DATA

〔グラスルーツ・アカデミー東北 in バークレー〕

テーマ：社会変革と地域民主主義

日程：2022年6月19日（日）～6月26日（日）

研修地：米国カリフォルニア州バークレーおよびベイエリア

主な訪問研修先

エディブル・スクールヤード（バークレー）／カンティクルファーム（オークランド）／好人庵禅堂（オークランド）／カストロ ウォーキングツアー（サンフランシスコ）／AEDAN（飯伝）麹キッチン（サンフランシスコ）／NATURA ナチュラ エコロジーと医薬の研究所（ボリナス）／DEN SAKE BREWERY（オークランド）

参加者：岩手・宮城・福島で活動する20代～40代の女性11名

同行スタッフ：2名 石本めぐみ（ウィメンズアイ代表理事）、塩本美紀（ウィメンズアイ理事）

助成：米日財団、チャンネル財団

講師：齊藤由香（さいとう ゆか）アクティビスト、翻訳家

プログラム設計：NPO法人ウィメンズアイ、齊藤由香

活動報告：https://womenseye.net/g_tohoku/berkeley2022

グラスルーツ・アカデミー東北 in宮城・鳴子

6月のバークレー研修の成果の一つは、事情があって参加がかなわなかった人、特に若い世代に、研修の学びのエッセンスを伝えたいと、参加者主体で帰国後のアカデミーを企画・運営したことです。この宮城・鳴子での3日間の研修は、「パワーウィズ(=協働)」をテーマに短時間ながら深いつながりを生み、終了後にも参加者同士の交流が続いています。「グラスルーツ・アカデミー東北」が始まって8年強。過去参加者コミュニティの中からは恩送りと呼んで若手の参加を促したり、アカデミー運営に貢献したいという具体的な動きも顕著に増えています。

DATA

テーマ：パワーウィズ

日程：2023年1月20日（土）～1月22日（日）

研修地：宮城県大崎市 東鳴子温泉旅館大沼

参加者：岩手・宮城・福島で活動する20代～40代の女性16名

*グラスルーツ・アカデミー東北inバークレー研修の参加者の推薦による助成：チャンネル財団、米日財団、ロクスタンジャボン（託児プログラム）

講師：齊藤由香（さいとう ゆか）

運営実行委員：浅野希梨、稲村友紀、黍原里枝、関口雅代、佐藤宏美、菅野瑞穂

託児保育士、協力スタッフ：田中大樹、今野夢子、大場葉菜、加藤邦江、中村雪子

撮影&地域情報協力：佐竹歩美



託児付宿泊研修の運営に学びも多く



自分のミッションについて話す



バークレーでお世話になった講師の帰国に合わせ開催

ローカル女子と未来をひらく プロジェクト～COMADO

アカデミーの過去参加者を中心に地域で活動する若手女性にインタビューし、ロールモデルを提示するwebサイト「COMADO」には年度末までに75本のインタビューを掲載しました。顔見知り程度の間柄でもサイト記事を通して互いの活動への根っこの思いを知る機会になっており、「初めて会った気がしない」という緩やかなヨコの紐帯を生んでいます。

<https://comado.womenseye.net/>



宮城県丸森町の八巻真由さんはその後、丸森町町議会議員に。



岩手県大槌町の小川麻里子さんは町の子育てママ達を支えている

登壇、講師派遣

- 6/2 麗澤大学 NPO論 (講師:石本)
 6/8 W20プレナリー農村・地方の女性と障がいのある女性 (石本)
 6/12 NPO学会「NPO・市民活動は女性・ジェンダーにどのように向きあうべきか」(登壇:石本)
 7/5 福島大学 行政政策学類「専門演習(ケアと支援社会学)」(講師:栗林)
 7/6 宮城大学「コミュニティープランナー概論」(講師:栗林)
 7/11日 青森県男女共同参画センター主催「まちづくりセミナー・公開講座」@五戸町 (講師:栗林)
 7/21 Workshop on Diversity in Disasters including participants@東北大学 (登壇:栗林)
 7/27 東洋英和女学院大学「女性のためのリーダーシップ」(講師:栗林)
 8/20 (一社)ポテンシア「多様な女性リーダーの姿 ～ポテンシア3周年記念～」オンラインイベント
 10/27 TOMODACHI次世代サミット2022 (パネリスト:五十嵐)
 11/12 地域女性とエンパワメントW20の取り組み 宮城学院女子大学公開シンポジウム「地方にくらす女性の可能性—宮城からの発信」(登壇:石本)
 2/1 シャネル財団イベント (登壇:石本)
 2/15 登米市 NPO法人スマイルむさし主催「生きづらさから一歩踏み出す女性の集い」(登壇:栗林)
 3/9 女性農業者研修会@登米市 (講師:栗林)
 3/18 「SDGsと地域社会～SDGsを地域社会で実現しよう！」(「人間の安全保障」フォーラム/SDGs市民社会ネットワーク共催、ウイメンズアイ後援 (登壇:五十嵐・石本)
 3/24 JWLI～女性リーダーシップ・グローバルサミットin Hawaii(登壇:石本)
 4/16 W7サミット (登壇:石本)
 4/21 ハーバード行政大学院イベント、ひとり親調査結果を報告(登壇:五十嵐)
 4/21 気仙沼市みらい人口会議:第1回推進委員会 (委員:石本)
 4/28 世界経済フォーラムDXセッション (登壇:石本)
 4/29 G7デジタル技術大臣会合ワーキングランチ (W7として参加:石本)
 5/20 米国大使館:起業家キアナ・スチュワート氏とのラウンドテーブル～女性の経済的エンパワメントについて～ (五十嵐)

- 5/20 気仙沼市みらい人口会議キックオフ「けせんぬま Well being ～人口減少社会における地域課題と戦略」(パネリスト:石本)
 5/20 東洋英和女学院大学「女性のためのリーダーシップ」(講師:栗林)
 5/22 日本NPOセンター会員サロン「活動の成果をエピソードの共有から捉えてみよう」(事例紹介:栗林)

イベント主催・協力

- 1/23～28 MIT学生のSTEAMプログラム受け入れ@気仙沼 (WE協力)
 1/28 「人間の安全保障」フォーラム (HSF) 主催 「科学の世界へようこそ with MIT Japan Program」(WE協力)
 3/21 (火・祝) オンライン活動報告会
 2/13-3/28 WE × ロクシタン 国際女性デー2023 女性の自立支援プロジェクト

海外と結んでの情報発信

- ・[ドキュメンタリー映画] Tsunami Ladies第2部「三浦さき子さんの物語～Forget Me Not」(スペイン語版、英語版)制作協力
- ・[W7] G7広島開催に合わせ、W7の日本代表団に参画した代表石本がコミュニケーション作成、W7サミット登壇、W7デジタル声明に貢献。W7日本運営委員会としてW7デジタル声明「女性が変革するデジタルワールド:より安全でインクルーシブな繁栄のために」発表にあたり、日本語版作成 (五十嵐、米倉)



危機をチャンスに変える女性のリーダーシップをハワイから発信

2022年度決算報告(概要) 2022年6月1日～2023年5月31日

(単位:円)

経常収益	53,768,873
助成金・補助金	22,466,410
民間からの助成金(*1)	22,466,410
寄付	15,960,816
一般寄付(*2)	2,187,355
プロジェクト指定寄付(*3)	8,599,515
資産受贈益(*4)	5,173,946
事業	15,341,516
交流事業	42,200
人材育成事業	8,583,187
うみさと暮らしのラボ事業	32,670
広報事業	251,520
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	6,431,939
その他	131

- *1 内訳:シャネル財団、米日財団、だいじょうぶだよ!基金、Yahoo!基金
 *2 寄付者名簿(5万円以上)はホームページにて掲載しております。
 *3 相談事業、グラスルーツ・アカデミー
 *4 建物(事務所)を無償で譲り受けたため。

経常費用	39,866,971
プロジェクト費	38,724,767
交流事業	49,094
人材育成事業	28,674,716
うみさと暮らしのラボ事業	5,897
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	8,337,616
広報事業	361,464
調査事業	1,295,980
管理費	1,142,204
経常外費用	264,771
法人税、住民税及び事業税	72,005
当期正味財産増減額	13,565,126
前期繰越正味財産額	7,056,152
次期繰越正味財産額(*5)	20,621,278

- *5 複数年度にまたがる事業へ助成金などが含まれます

Message from Women's eye この1年

コロナ禍3年目となる2022年度は、やっと終わるという期待と感染拡大による落胆を何度か繰り返し、収束へと向かった年でした。「女性と女の子の相談窓口」の相談件数は前年の60件から130件へと2倍以上に増えましたが、ウィメンズアイの相談できる場としての認知は高まりました。コロナ禍の厳しい状況下で行政、市民団体、専門家らと力を合わせ踏み出した調査活動は、データや当事者の声を収集・分析し説得力のあるエビデンスで課題と根本原因を可視化し、世論や政策に影響を与えることにつながりました。この経験はウィメンズアイの今後の方向性を特徴付け、10月にミッションを見直し、地域女性を取り巻く社会環境づくりに取り組むことを明文化しました。人口減少により社会関係資本が急激に減少する地方では、行政、NPO、企業、地域の人たちが資源を持ち寄り協働する必要があります。ウィメンズアイはその手法により、女性の職場環境を整える視点から、南三陸町での子どもの預かり事業に関する調査、気仙沼市での子どもの居場所づくりにも着手しました。2023年3月から7月にかけては、シャネル財団がウィメンズアイの活動について第三者評価を実施し、地元の人17名にインタビューを実施しました。評価結果のひとつに「ウィメンズアイは他者からどう見られているか」があり、ウィメンズアイが「地域で信頼される存在」と認識されていること、地域における「女性のエンパワーメントについて灯台のような存在」として語られたことは、ウィメンズアイを支えてくれるすべての人に捧げたいと思います。

石本めぐみ

東日本大震災後の復興支援の経験から、
地域が続いていくために女性の元気が欠かせないと気づきました。
私たちの活動は皆様に支えられています。
どうか、ウィメンズアイを応援してください。

クレジット決済寄付

寄付サイト Syncable を通してお手続きいただけます。マンスリーサポーター（毎月定額寄付）、あるいは今回のみ寄付をお選びください。

<https://womenseye.net/support>

寄付サイト Give one から、ウィの「女性と女の子の相談窓口」への寄付ができます（寄付金控除など税制優遇対象）

<https://giveone.net/index.html>

振込による寄付

右記連絡先宛に、お名前、ご連絡先、お振込予定日、領収書の宛名をご一報ください。

振込口座

〈銀行の場合〉

ゆうちょ銀行

金融機関コード9900

店番:818

預金種目:普通

店名:ハ一八店(ハチイチハチ店)

口座名:特定非営利活動法人ウィメンズアイ

口座番号:1966320

〈郵便局からの場合〉

郵便振替口座:18190-19663201

口座名義:トクヒ)ウィメンズアイ



2023年6月、WEの事務所は南三陸町歌津に引っ越しました。2棟の建物は、NPO法人南三陸ミシン工房様よりご寄贈いただきました。本当にありがとうございます

ブックレットのご案内

ローカル女子と未来をひらく ～災害復興と女性のエンパワーメント2011-2020

(2021年9月刊行 B5判カラー

本文52頁+表紙)

冊子版 1冊500円(税込)+送料

Kindle版 500円(税込)

amazonで販売中

英語版はこちらのサイトで無料公開しております

[https://womenseye.net/wp02/](https://womenseye.net/wp02/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf)

[wp-content/uploads/2022/12/](https://womenseye.net/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf)

[booklet_E02.pdf](https://womenseye.net/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf)

*英語版制作には米日財団のご寄付をいただきました



WEのビジョン

いのちと暮らしを真ん中に自分をいかし
歩み続ける女性たち

WEのミッション

- ①地域女性のエンパワーメント
 - ②地域女性をとりまく環境を手入れする
 - ③地域女性の声を内外に伝える
- (2022年10月策定)

特定非営利活動法人ウィメンズアイ

Women's Eye

ホームページ

<https://womenseye.net>

Facebook

<https://www.facebook.com/Womenseye20130604/>

Twitter

<https://twitter.com/womenseye1>

Instagram

<https://www.instagram.com/womenseye1/>

住所 〒988-0474

宮城県本吉郡南三陸町歌津字田表35-1

(2023年6月1日より)

TEL 0226-25-9517

FAX 0226-25-9519

メール info@womenseye.net

○2022年度末(2023年5月31日)現在

正会員19名

スタッフ総勢:11名

事務局長 五十嵐光

○役員一覧

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橋高真佐美(弁護士)

理事 西村和代(株)カラーズジャパン代表)

理事 清野浩司(中小企業診断士)

理事 塩本美紀(編集者・ライター)

理事 田島誠(認定NPO法人環境エネルギー政策研究所)

理事 工藤真弓(南三陸町 上山八幡宮 禰宜)

理事 栗林美知子

監事 成田由加里(公認会計士・税理士)

